

## 和歌山病院での実習を終えて



小泉 杏奈

この度は、ご多忙にも関わらず、貴院での実習の機会を頂きまして、誠にありがとうございました。南方院長、駿田副院長よりご丁寧な指導を賜り、大変有意義な時間を過ごす事が出来ました。

結核病棟へと足を運んで見学をさせて頂く前に、駿田副院長より結核の感染経路のお話を伺いました。結核と同じく空気感染しうる麻疹、風疹とは異なり、結核は接触感染・飛沫感染をしない為、標準予防策以上の過度な手洗いやガウンの着用は必要ない等の正しい知識を身につける事で、患者さんに正しい情報を提供出来ると共に、不必要な感染予防策を省くことができ、病棟業務の効率の向上に繋がると思いました。また、実際に陰圧室に足を運ぶのは初めてでしたので、入口の空気のカーテンから始まり、外部に結核菌を排出させない為の空気の流れを、水蒸気を発生させながら目で見て学ぶことが出来、その仕組みに感動致しました。結核の患者さん自身の完治のため、また、耐性菌を作らせないため、DOTS の元で、患者さんがこれらを理解し、6錠という多くの錠剤を服薬され、看護師さんから服用完了シールを頂く様子も拝見し、試験の際に文字で覚えていたDOTSの内容の具体的なイメージが湧きました。

その後に、南方院長より、胸部 X 線の読影の仕方をご教授賜りました。年始より、病棟実習が始まり、これまでは各疾患ごとに特徴的な X 線所見を探すことしか出来ておらず、体系的な読影は出来ておりませんでした。南方院長の読影方法は、非常に体系的です。正常の X 線を基本として、正常にはない線が写っていた際に、「X 線照射方向に対し、接線方向において白の density の mass と黒の density の mass とが接していることによる」との知識があれば、解剖学的に mass の部位の推測に繋がり、CT 所見を読影する前にあるいは CT 所見を読影せずとも疾患の推測に繋がると思いました。今回ご教授賜りました原則を、今後 X 線読影の際に最大限活かし、学習を進めていく所存です。また、1 日目の最後に開催して頂きましたお食事会では、今後のキャリアのことや、御坊の魅力等、どのお話も興味深く、お酒を頂いていたとはいえ、内容が鮮明に記憶に残っております。

2 日間という短い間でしたが、先生方、また駅までの送迎をして下さった事務員の方々には大変お世話になりました。今回学んだことを将来自分が診る患者さんに還元できるよう、今後も努力を続けていく所存です。末筆ながら、重ねて感謝の意を申し上げます。